

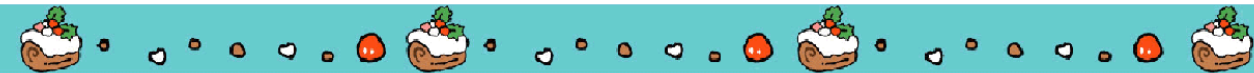
港区立南山幼稚園

Minato City, Nanzan Kindergarten

12月園だより

令和5年11月28日
November 28, 2023

園長 河合 晴美
Principal
Harumi Kawai



「自分ごと」として

園長 河合 晴美

ゆっくりと木の葉が色付いている中で、子どもたちが元気いっぱい遊んでいます。落ち葉を集め、どんぐりを拾いながら季節を楽しむ他、縄跳び(短縄・大縄・へび)に挑戦している姿も見られます。何かを見つけると学年を超えて集まり、3学年が関わりながら遊ぶ南山らしいアットホームさを感じます。

11月は保護者の皆さまに保育参加や南山まつりに御参加いただくとともに、多大な御協力をいただきまして誠にありがとうございました。子どもたちが大きな行事を経験し、成長した姿に自信が加わり、さらに大きく成長した姿になるように過ごしてまいります。

さて、先日行われた「六本木アカデミーの研究保育、協議会」では、アカデミーの目指す「自分の考えをもち、表現し、伝え合う子供の育成」～主体的に学習(遊びや生活)に取り組む態度の育成～について、4,5歳児の保育を参観し、協議が行われました。その中で、5歳児の当番活動(カメの世話、水やり、靴箱の掃除、絵本の整理等)について、「自分達で役割分担をし必要感をもって行っている」という評価を受けました。しかしながら、その姿となるために、今まで教師側の導き方に試行錯誤がありました。意欲をもち取り組んだ当番活動ですが、その後、やることの見通しがつかめない、忘れてしまうことがある、他人任せで終わらせてしまうなど、数人で進める活動は終わらせることができても、ひとり一人が意識できているかという点で疑問が残る日々でした。その実態を考慮し、子どもたちとチェックシートを作り、活用しながら取り組むことにしました。ひとり一人が「自分ごと」になるために、やることを分かりやすく捉えること、何をどうするか考え、行動する、行うことの意味を理解し、状況を確認してその結果も受け止めるようにしてきました。その小さな積み重ねが子どもたちの行動様式として身に付いた姿となりました。

今、子どもたちは、生活発表会に向けて取り組んでいます。各学年子どもたちの興味をもとに、ひとつの話の中に自分を置き、表現をしています。遊びながら「劇」という形にしていけるために、幼児それぞれが「自分ごと」として動いていかなければなりません。自分主体で動いていくからこそ達成感、満足感が得られます。3歳児は、教師の言葉を聞きながら話の世界に入り、展開を楽しみます。4歳児は、動きや言葉を表していくことで話が展開していきます。5歳児は、登場人物として、どのように考え、どのように動いていくか、話の展開が分かることで想像したことを表していきます。それぞれ自分たちならではの劇として、できた満足感や達成感を味わうとともに、さらに次へとつながる自信がもてるようにしていきます。

当日を楽しみに
しててください。



<各学年の表現活動>

